

This Page Is Inserted by IFW Operations  
and is not a part of the Official Record

## **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning documents *will not* correct images,  
please do not report the images to the  
Image Problems Mailbox.**



IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

APPLICANT: OMURA, Yoshiharu

SERIAL NO.: 10/038,278

FILED: January 4, 2002



TITLE: CAN HAVING A COVER WITH A STAY-ON TAB

TRANSMITTAL OF CERTIFIED COPY OF FOREIGN PRIORITY DOCUMENT

Assistant Commissioner for Patents  
Washington, D.C. 20231


Sir:

Attached please find the Foreign Priority Document, Japanese Patent Application No. 2001-228756, filed on 22 June 2001.

Respectfully submitted,

Date

9-25-02

  
John S. Egbert  
Reg. No. 30,627  
Harrison & Egbert  
412 Main Street, 7<sup>th</sup> Floor  
Houston, Texas 77002  
(713)224-8080  
(713)223-4873 (Fax)

CERTIFICATE OF MAILING UNDER 37 CFR 1.8(a)

I hereby certify that the attached CERTIFIED COPY OF FOREIGN PRIORITY DOCUMENT is being deposited with the United States Postal Service with sufficient postage as first class mail in an envelope addressed to:

Commissioner of Patents and Trademarks  
Washington, D.C. 20231

on 9-25, 2002.

Date

9-25-02

  
John S. Egbert



日 本 国 特 許 庁  
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日

Date of Application:

2001年 6月22日

出 願 番 号

Application Number:

特願2001-228756

[ST.10/C]:

[JP2001-228756]

出 願 人

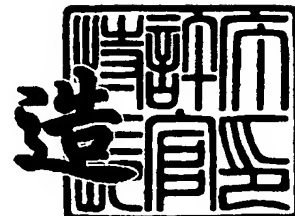
Applicant(s):

大村 義治  
大村 ふさ子

2002年 2月 8日

特 許 庁 長 官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

及 川 耕 造



出証番号 出証特2002-3005380

【書類名】 特許願

【整理番号】 P002001-06

【提出日】 平成13年 6月16日

【あて先】 特許庁長官 殿

【発明の名称】 シーソー型プルタブの缶蓋

【請求項の数】 6

【発明者】

【住所又は居所】 静岡県浜北市内野 1 3 0 3 番地の 1

【氏名】 大村 義治

【特許出願人】

【識別番号】 398006763

【氏名又は名称】 大村 義治

【特許出願人】

【識別番号】 599051203

【氏名又は名称】 大村 ふさ子

【先の出願に基づく優先権主張】

【出願番号】 特願2001- 34634

【出願日】 平成13年 1月 5日

【整理番号】 P002001-01

【先の出願に基づく優先権主張】

【出願番号】 特願2001-134655

【出願日】 平成13年 3月27日

【整理番号】 P002001-03

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図 面 1

【物件名】 要約書 1

【書類名】 明細書

【発明の名称】 シーソー型プルタブの缶蓋

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 缶蓋に設けられたプルタブの飲み口に接する部分と持ち上げる部分を、蓋の積層に支障のない範囲までシーソー状の上向きの形状にして、蓋面との間隙を設けたことを特徴としたシーソー型プルタブの缶蓋である。

【請求項 2】 缶蓋に設けられたプルタブの左右変動を制止するために、リベット部分の蓋からの凸部の形状を楕円形又は、多角形にしたことを特徴としたプルタブの缶蓋である。

【請求項 3】 【請求項 1】 に関して、缶内の膨脹による蓋の膨れ上がりを制止するために、蓋面に何箇所かのリムを設けたことを特徴としたシーソー型プルタブの缶蓋である。

【請求項 4】 【請求項 1】 に関して、プルタブの飲み口に接する上向きの部分を補強するために、リベット部分の両側を可能な限り深くして、切り落とさずに外側に折り曲げたことを特徴としたシーソー型プルタブの缶蓋である。

【請求項 5】 缶蓋に設けられたタブの引っ掛かり等による回転を確実に制止するために、タブ中央のカシメ部分の横側（図 7）に穴を設け、蓋面からの凸部をタブ平面よりも支障のない限り高くして、セットしたことを特徴としたプルタブの缶蓋である。

【請求項 6】 【請求項 5】 に関して、蓋面からの凸部をタブにセットし、その凸部上部をリベットしたことを特徴としたプルタブ缶蓋である。

【発明の詳細な説明】

【0001】

〔発明に属する技術分野〕

この発明は、缶蓋の開口時容易に指先を入れ易くしたプルタブ缶蓋に関するものである。

【0002】

〔従来技術〕

従来のプルタブ缶蓋は、タブが蓋面に密着して開口時指先が入れ難かった。

## 【 0 0 0 3 】

## [発明を解決しようとする課題]

従来のプルタブ缶蓋は、タブが外的要因で左右に変動し、開口が困難な場合があった。

又ビール、炭酸ガス等を含んだ飲料において、内容物の膨脹により蓋面が膨れ上がり、物理的にシーソー状のプルタブを設けることが不可能であった。更にプルタブをシーソー状にした時、飲み口に接する上向き部分の強度に支障の懸念があった。

従来のプルタブ缶蓋は、蓋面に密着して開缶時指先が入れ難かった。

## 【 0 0 0 4 】

## [課題を解決するための手段]

本発明は、缶蓋の中心にセットされたプルタブの飲み口に接する部分と、指先を入れる部分を、蓋の積層に支障のない範囲で上向きのシーソー状にして、蓋との間隙を設け指先を入れ易くしようとしたものである。

## 【 0 0 0 5 】

リベット部分の蓋からの凸部を、現況の円形の寸法内で楕円形にすることにより、タブの左右変動を制止しようとしたものである。

## 【 0 0 0 6 】

蓋面に数箇所のリムを設けて、ビール等の内容物の膨脹による蓋面の膨れ上がりを制止し、物理的にシーソー状プルタブを設けることを可能にしたものである。

## 【 0 0 0 7 】

飲み口に接する部分のプルタブの上向き部分を補強するために、リベット部分の両側を可能な限り深くして、切り落とさずに外側に二重又は三重に折り曲げたものである。

## 【 0 0 0 8 】

タブ回転防止用凸部は、蓋のタブ中央リベット部分の横側に円形の穴を設け、蓋面からの凸部の高さを穴部分の平面よりも0.5～1.0ミリ程高くしてセットし、又は凸部上部をリベットして回転を確実に制止しようとしたものである。

## 【 0 0 0 9 】

## 〔発明の実施の形態〕

缶蓋の中央にリベットされたプルタブを、飲み口を押さえる部分と指先を入れる部分を、上向きなシーソー状に形成しようとしたものであり、飲み口に接する部分を指で押した時、反対側の指先の入る間隙が大きくなり容易に指が入るものである。

## 【0010】

リベット部分の蓋からの円形の凸部を、同寸法内において楕円形にして、タブの左右変動を制止しようとしたものである。

## 【0011】

蓋面に数箇所の可能な限り深いリムを設けて、内容物の膨脹による蓋面の膨れ上がりを制止して、プルタブを設けることを物理的に可能にしようとしたものである。

## 【0012】

プルタブの上向き部分を補強するために、カシメ部分のタブの両側を切り落とさずに外側に折り曲げて、二重又は三重に重ねてタブを強くしようとしたものである。

## 【0013】

缶蓋のタブの引っ掛かり等による回転を確実に制止するために、中央カシメ部分の横側にタブに穴を設けて、蓋面から設けた凸部の高さをタブ平面よりも支障のない範囲高くしてセットし、又はセットした凸部の上部をリベットとたものである。

## 【0014】

## 〔実施例〕

実施例については図面を参照にして説明すると

図1は請求項1で説明したシーソー状プルタブの缶蓋の斜視図である。リベット部分を中心に左右上向きのシーソー状にして、蓋面とに間隙を設けたものである。

図2は請求項1で説明したシーソー状プルタブを積み重ねた斜視図であり、蓋の積層に支障のない範囲内での上向き形状にしたものである。

図 3 は請求項 1 で説明したプルタブで指先を押さえた時の形態である。

図 4 は請求項 3 で説明したプルタブ蓋面の断面図である。プルタブの左右の蓋面に数箇所の深いリムを設けて、膨れ上がりを制止したものである。

図 5 は請求項 2 で説明したプルタブの平面図である。

リベットされた蓋からの凸部を楕円形にして、左右の変動を制止したものである。

図 6 は請求項 4 で説明したプルタブ補強部分の斜視図である。

図 5 で示された斜線面を切り落とさず外側に折り曲げたものである。

図 7 は請求項 5 で説明したタブ回転防止凸部の斜視図である。

図 8 は請求項 5 で説明した斜面図である。

#### 【 0 0 1 5 】

【発明の効果】本発明は、以上説明したような形態で実施され以下に記載されるよ

うな効果を奏する。

#### 【 0 0 1 6 】

本発明は、プルタブをシーソー状の形態にすることにより、開缶時に容易に指先が入るものである。

#### 【 0 0 1 7 】

本発明は、外的要因によってタブの変動を制止し、開口時の支障をなくしたものである。

#### 【 0 0 1 8 】

本発明は、蓋面に深いリムを数箇所設けることによって、缶内の内容物の膨脹による蓋面の膨れ上がりを制止し、シーソー状プルタブを設けることを可能にしたものである。

#### 【図面の簡単な説明】

図面についての説明は実施例において述べた通りである。

〔図 1〕は〔請求項 1〕で述べた斜視図である。

〔図 2〕は〔請求項 1〕で述べた斜視図である。

〔図 3〕は〔請求項 1〕で述べた斜視図である。



〔図4〕は〔請求項3〕で述べた断面図である。

〔図5〕は〔請求項4〕で述べた平面図である。

〔図6〕は〔請求項4〕で述べた斜視図である。

〔図7〕は〔請求項5〕で述べた斜視図である。

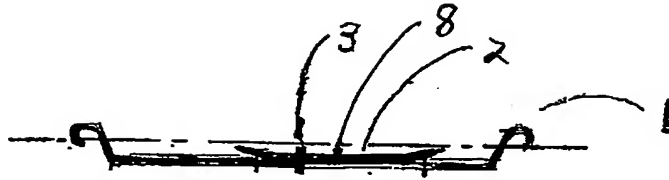
〔図8〕は〔請求項6〕で述べた斜面図である。

【符号の説明】

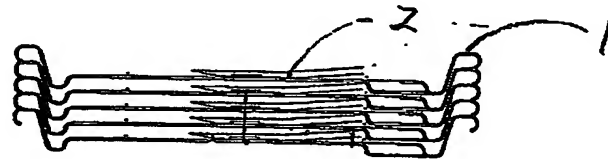
1. 缶蓋
2. プルタブ
3. リベット部分
4. 楕円形の凸部
5. 斜線の部分（折り曲げの部分）
6. リム状
7. タブの上向き部分
8. 回転防止用凸部
9. 回転防止凸部のリベット部分

【書類名】 図面

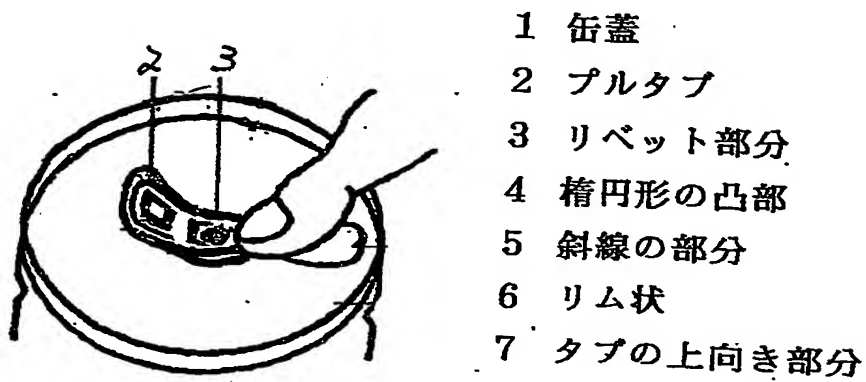
【図 1】



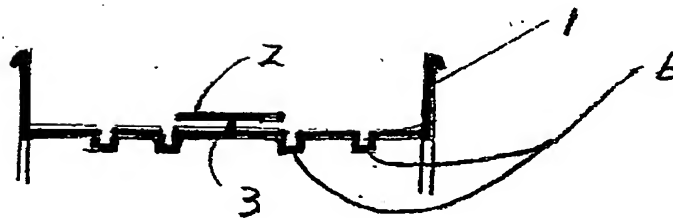
【図 2】



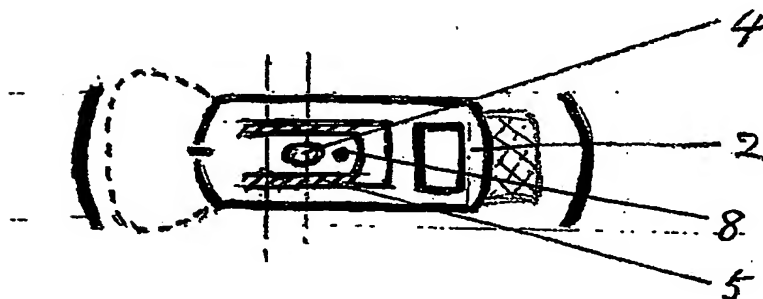
【図 3】



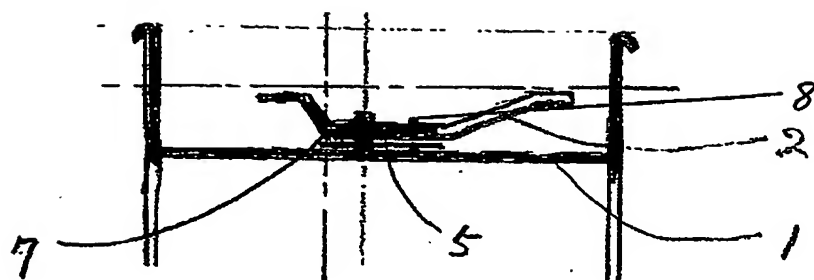
【図 4】



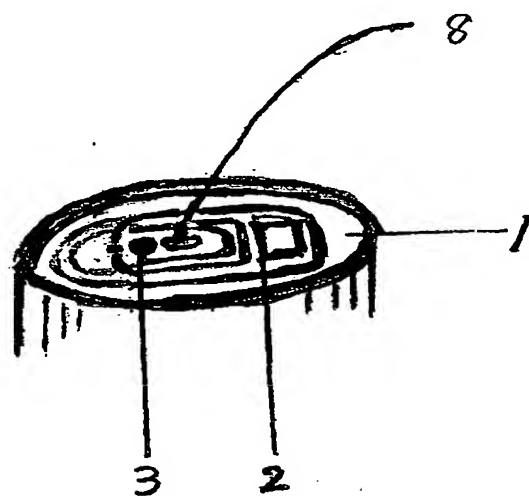
【図 5】



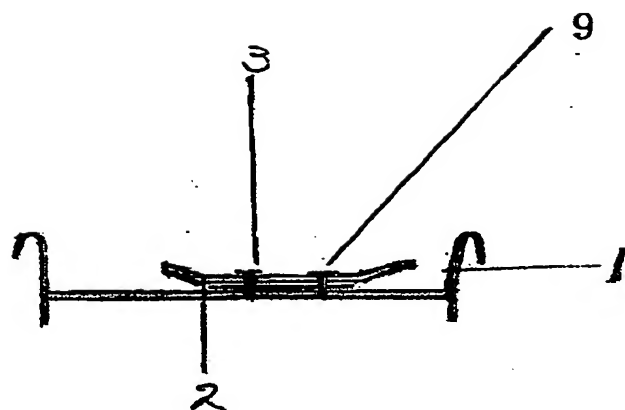
【図 6】



【図 7】



【図 8】



8. 回転防止凸部

9. 回転防止の凸部リベット部分

【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 従来のプルタブを使った缶蓋においては、開口時に指先が入り難かった。又、外的要因でタブが左右に変動し開口に支障が生じた。更にビール等においては、内容物の膨脹により蓋面が膨れ上がり、シーソー状プルタブのセットが不可能であった。

【解決手段】

缶蓋に設けられたプルタブの中央のカシメ部分を中心に、飲み口に接する部分と持ち上げる部分を、上向きなシーソー状のタブにして蓋との間隙を設け、開口時飲み口に接する部分を指先で押さえることによって、反対側のタブと蓋面との間に大きな間隙ができ、指先を入れ易くしたものである。

又、リベット部分の蓋からの凸部を従来の円形寸法内で楕円形の形状にすることか、又はカシメ部分の横側にタブの平面より高くした蓋面からの凸部を設けて、回転を制止したものである。

更に蓋面に数箇所の深いリムを設けることにより、缶内の膨脹による膨れ上がりを制止することができ、ビール、コーラ等の炭酸飲料の缶にも物理的にセットを可能にしたものである。

【選択図】 図 1

認定・付加情報

特許出願の番号	特願2001-228756
受付番号	20101180518
書類名	特許願
担当官	佐藤 一博 1909
作成日	平成13年 8月21日

<認定情報・付加情報>

【提出日】	平成13年 6月22日
-------	-------------

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[398006763]

1. 変更年月日 1998年 1月19日  
[変更理由] 新規登録  
住 所 静岡県浜北市内野1303の1  
氏 名 大村 義治

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [599051203]

1. 変更年月日 1999年 3月 9日  
[変更理由] 新規登録  
住 所 静岡県浜北市内野1303番地の1  
氏 名 大村 ふさ子